

GHG 排出量削減目標の見直しについて

山陽特殊製鋼株式会社(代表取締役社長 宮本 勝弘、本社 兵庫県姫路市)は、持続可能な社会の実現に貢献することを目指し、2050年カーボンニュートラルへの取り組みをさらに強化するため、2030年度までのGHG^(※1)排出量削減目標の見直しを行いました。

これまで、CO₂排出量のうち Scope1+2(直接排出+間接排出)は、当社単体のエネルギー起源CO₂の排出量削減目標を掲げておりましたが、このたび、当社単体および連結のGHG排出量を算定し、SBT^(※2)に沿ったGHG排出量を基準とする削減目標といたしました。また、Scope3(サプライチェーンからの間接排出)に関しましては、2024年4月に当社単体のGHG排出量削減目標の開示を行ったところですが、カテゴリ1^(※3)について、お取引先様との協働によって、環境省の算定ガイドラインの排出係数を用いた算出値から実績値への置き換えが進んだことから、最新の状況を反映させるとともに、連結のGHG排出量の算定、目標設定も行いました。

当社グループは、エコプロセスの推進、グリーンエネルギーの活用を一層強化するとともに、サプライチェーンの皆様と協力しながら、新たなGHG排出量削減目標を達成するための取り組みを推進してまいります。

(※1) Greenhouse Gas の略称。地球温暖化の原因となる温室効果ガスである、二酸化炭素(CO₂)、メタン(CH₄)、一酸化二窒素(N₂O)、ハイドロフルオロカーボン類(HFCs)、パーフルオロカーボン類(PFCs)、六フッ化硫黄(SF₆)、三フッ化窒素(NF₃)の7種類をさす。

(※2) Science Based Target の略称。「パリ協定が求める水準と整合した温室効果ガス排出量削減を目指す、国際的な削減目標」のこと。「パリ協定が求める水準」とは、「世界の気温上昇を産業革命前より2°Cを十分に下回る水準に抑え、さらに1.5°Cに抑える努力をすること」をさす。

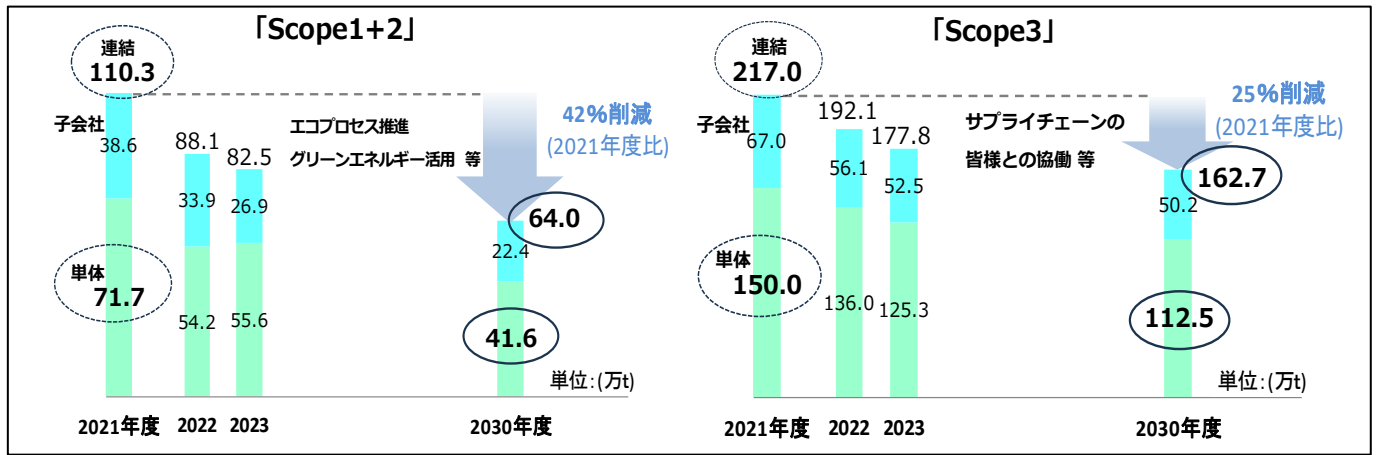
(※3) カテゴリ1は、当社が購入した原材料・諸資材等が製造されるまでの活動に伴うGHG排出量ならびに外注先での外注サービスの活動に伴うGHG排出量をさす。

<2030年度目標>

(単位：万トン)

		従来の目標					新たな目標				
		対象ガス	基準年度	基準排出量	目標排出量	削減率	対象ガス	基準年度	基準排出量	目標排出量	削減率
連結	Scope1+2						GHG	2021年度	110.3	64.0	△42%
	Scope3								217.0	162.7	△25%
単体	Scope1+2	CO ₂	2013年度	84.1	42.0	△50%	GHG	2021年度	71.7	41.6	△42%
	Scope3	GHG	2021年度	139.6	104.7	△25%			150.0	112.5	△25%

(注) 単体のScope1+2の削減率は基準年度を2013年度から2021年度へ変更したことに伴い、これまでの削減実績などを考慮し、目標削減率を△42%といたしました。



以上

「お問い合わせ先」 山陽特殊製鋼株式会社 総務部広報グループ (TEL : 079-235-6002)